活用事例	2 3 休憩時間に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】ブラインド方式、保護者や地域の方々との合同避難訓練		
学校名	防府市立新田小学校		
日時	平成２５年１１月１９日（火）　業間～３時間目		
場所	運動場・市営住宅	参加者	児童・教職員・地域住民・保護者

１　訓練のねらい

(1)　地震、津波などの不測の事態に、児童を一次・二次避難場所へ安全に避難させることができるようにする。
(2)　集団訓練の一環として、非常の場合でも冷静な態度で秩序ある行動がとれるようにする。
(3)　非常の場合の職員の責任分担を明らかにするとともに、その場に応じて適切な処置がとれるようにする。
(4)　学校運営協議会との共催行事とし、地域やＰＴＡとも協力しながら校外の建物に安全に避難することができるようにする。

２　訓練の概要

(1)　学校運営協議会で地震・津波避難訓練の実施計画について協議する。
○　第２避難場所や避難経路の交通安全について
○　地域やＰＴＡとの協力について

(2)　徳山工業高等専門学校の目山直樹教授による児童・保護者・地域住民の対象にした地震・津波対応に関する授業や講演会。
○　１０月１１日（金）総合的な学習の時間において

津波発生の仕組みについて学ぶ

ハザードマップを使って自宅と避難場所、その道筋や校区にある３階以上の高い建物の位置を調べる。

○　１０月１２日(土)新田地区の社協、自治会長、民生委員等の会合において防災講演会の実施
内容：新田地域の地形の特性、地域連携、自助・共助・公助等について
○　１０月１６日(水)ＰＴＡ教育講演会において
内容：新田地域の地形の特性、避難場所、避難経路の確認等、家族で話し合っておくことや地域連携について

(3)　訓練の実施
学級での朝の会で今日避難訓練が実施されることや訓練の意義、避難時の行動等について再確認する。（時刻は知らせない）

運動場で遊んでいたり、校舎内で過ごしていたりする自由な時間（業間時間）に地震が起きたという設定。

①　訓練開始の緊急放送

「訓練、訓練。地震が発生しました。」

校内放送を地震の発生とする。
揺れの効果音を流す。

Ａ　教室や特別教室にいたとき
倒れてくる物や落ちてくる物から身を守るため、机やテーブルの下にもぐる。

B　廊下にいたとき
　倒れてくる物や落ちてくる物に気をつけてしゃがむ。
C　階段にいたとき
　手すりをつかみ、しゃがむ。踊り場等に移動してしゃがむ。
D　トイレにいたとき
　トイレの戸が開かなくなることがあるのでトイレの戸を開ける。
E　運動場にいたとき
　運動場のなるべく中央に集まりしゃがむ。

② 　４0秒後避難開始の放送

「揺れが収まりました。周囲の安全を確認し、落ち着いて避難してください。」

　A～Dは上靴のまま、倒れてくる物や落ちてくる物や足元の危険物に注意して、運動場の避難場所に避難する。Eはその場から避難場所に移動する。学年学級別に並び、人数がそろったらしゃがむ。

教員：教室以外の場所にいたとき、揺れが収まったら次の行動をとる。
〈学年で役割分担〉
・教室に向かい、児童を避難させる。
・避難経路に向かい、児童を運動場に誘導する。
※　トイレや特別教室等に児童が残っていないか確認する。
・避難場所に向かい、避難場所に誘導、児童を管理する。

③ 　避難完了　一次避難場所：運動場

④ 　４分後　津波警報発令。避難開始

「津波警報が発表されました。交通に気をつけ、市営住宅に避難します。」

市営アパート３棟に、３グループに別れて、地域住民、保護者と共に４階～５階に避難

保護者や地域の方と共に

⑤ 　二次避難完了
　避難場所：市営アパート４階・５階

⑥ 　校長から避難訓練の評価と講評

３　訓練の成果と課題

【成果】
◇　避難場所や避難経路が確認できた。
◇　児童、保護者、地域の方が一緒に避難することを通して共助意識が生まれてきた。
【課題】
◆　新田地域の特色として高台がないことから、自宅近くの高い建物を意識させておくことが必要。
◆　地域と連携した学校中心の避難訓練であったが、今後は児童が自宅近くで遊んでいる場面も考え、地区全体の防災訓練が必要。